

社会－13（第6学年） 予想や仮説を立てて調べ、自分の考えを説明する事例

【学習活動の概要】

<p>1 単元名 わたしたちの願いを実現する政治</p>				
<p>2 単元の目標 地方公共団体や国の政治の働きについて、市役所などの見学・調査や収集した資料を活用して調べ、政治は国民生活の向上と安定を図るために大切な働きをしていることを考えるようにする。</p>				
<p>3 評価規準</p> <p>【社会的事象への関心・意欲・態度】 地方公共団体や国の政治の働きに関する社会的事象に関心をもち、それを意欲的に調べ、国民生活と政治の働きとの関連を考えようとしている。</p> <p>【社会的な思考・判断・表現】 地方公共団体や国の政治の働きに関する社会的事象から学習問題を見いだして追究し、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを考え適切に表現している。</p> <p>【観察・資料活用の技能】 地方公共団体や国の政治について、資料を活用したり聞き取り調査をしたりして調べ、必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。</p> <p>【社会的事象についての知識・理解】 国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること、政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解している。</p>				
<p>4 教材 本単元では単なる政治の仕組みや名称を暗記させることを目的としているのではなく、社会的な見方や考え方を獲得させることを目指している。そのために、自分のこととして政治の働きをとらえるために、政治の仕組みを児童自身とつなげなければならない。そこで、新聞やテレビ等で取り上げられている子育て支援事業を中心に単元を構成していく。子育て支援事業を始めとする社会保障の仕組みは、我が国では「支え合い」で成り立っている。そのため、少子高齢化による人口減少という問題が社会保障とどのように関わり、将来どのような問題が起こると予測されるのかを認識する必要がある。この、「現在」だけではなく「未来」も予測する思考を身につけることが、持続可能な社会を形成する資質や能力となる。そのために政治の働きが諸問題の解決に向けられていることについて、児童が社会的事象や自分たちの生活と関連付けてとらえられるように単元設定を行った。</p>				
<p>5 主な学習活動 (1) 単元の計画 (全9時間)</p> <table border="1" data-bbox="183 1344 1404 1758"> <thead> <tr> <th data-bbox="183 1344 949 1411">学習活動</th> <th data-bbox="949 1344 1404 1411">言語活動に関する指導上の留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="183 1411 949 1758"> <ul style="list-style-type: none"> ○市役所での仕事について関心をもち、その仕事内容を調べる計画を立てる。(1) ○市役所や市議会を訪ね、市民の願いを実現するために取り組んでいることを調べる。(2) ○市民生活と税金の関係について調べまとめる。(1) ○税金と国の施策の関係について調べまとめる。(2) ○子育て支援事業の目的や意図を考えまとめる。(1) <p style="text-align: right;">本時</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子育て支援事業の取組について調べ、まとめる。(1) ○国会や内閣の働きと選挙について調べまとめる。(1) </td> <td data-bbox="949 1411 1404 1758"> <ul style="list-style-type: none"> ・知っていることを自由に発表させる。 ・質問事項を文章であらかじめ用意させる。 ・関係図にまとめて説明させる。 ・資料から分かったことをまとめ班や学級全体で話し合わせる。 ・学習したことを活用し自分の言葉で学んだことを整理させる。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 本時の学習 (7/9)</p> <p>①目標 少子化により、若い人の高齢者を支える負担が大きくなるように、国は子ども手当や高校無償化のような、子どもを育てやすい政策を行い、少子化を改善しようとしていることがわかるようにする。</p> <p>②展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子育て支援事業のPR資料を見て考える。 ○予想をたて出生率と人口のグラフから考える。 ○高齢者を支える仕組みについて考える。(役割演技) ○調べてわかったことをノートにまとめる。 	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ○市役所での仕事について関心をもち、その仕事内容を調べる計画を立てる。(1) ○市役所や市議会を訪ね、市民の願いを実現するために取り組んでいることを調べる。(2) ○市民生活と税金の関係について調べまとめる。(1) ○税金と国の施策の関係について調べまとめる。(2) ○子育て支援事業の目的や意図を考えまとめる。(1) <p style="text-align: right;">本時</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子育て支援事業の取組について調べ、まとめる。(1) ○国会や内閣の働きと選挙について調べまとめる。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・知っていることを自由に発表させる。 ・質問事項を文章であらかじめ用意させる。 ・関係図にまとめて説明させる。 ・資料から分かったことをまとめ班や学級全体で話し合わせる。 ・学習したことを活用し自分の言葉で学んだことを整理させる。
学習活動	言語活動に関する指導上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ○市役所での仕事について関心をもち、その仕事内容を調べる計画を立てる。(1) ○市役所や市議会を訪ね、市民の願いを実現するために取り組んでいることを調べる。(2) ○市民生活と税金の関係について調べまとめる。(1) ○税金と国の施策の関係について調べまとめる。(2) ○子育て支援事業の目的や意図を考えまとめる。(1) <p style="text-align: right;">本時</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子育て支援事業の取組について調べ、まとめる。(1) ○国会や内閣の働きと選挙について調べまとめる。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・知っていることを自由に発表させる。 ・質問事項を文章であらかじめ用意させる。 ・関係図にまとめて説明させる。 ・資料から分かったことをまとめ班や学級全体で話し合わせる。 ・学習したことを活用し自分の言葉で学んだことを整理させる。 			

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

小学校学習指導要領・社会の第6学年の内容(2)では、「我が国の政治の働きについて、次のことを調査したり資料を活用したりして調べ、国民主権と関連づけて政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていること、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを考えようにする」、「ア 国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること」と示されている。また、各学年にわたる内容の取扱いと指導上の配慮事項として「社会的事象を多面的、総合的にとらえ公正に判断することができるようにする」ことが示されている。『小学校学習指導要領解説 社会編』においては、学年の目標に関する記述として「調べたことや社会的事象の意味について広い視野から考えたことを、根拠や解釈を示しながら図や文章などで表現し説明することができるようにする」ことが示されている。

本事例は、社会保障の取組を取り上げたものである。学習指導要領解説に「高齢者や障害者のための福祉政策、健康医療に関する事業、子育て支援事業など」と説明されていることを踏まえて本時で社会保障の具体例として子育て支援事業を取り上げた。児童が知っていることを基にして話し合いが活性化することを期待した。

【言語活動の充実の工夫】 一学んだことを活用して予想や仮説を考え説明する一

本時では、それまでに習得した知識や社会的な見方や考え方を活用する場面での言語活動を充実させた。それは、実際にこれまで習得した知識を活用し、様々な社会的事象間の関連について、実感を伴って理解し、それを説明できるようにしていくためである。しかし、中には、ただ与えられた知識や友達の発言した言葉をその意味や内容を深く考えずに「オウム返し」のように表現する児童も見られる。そこで本時では、以下の工夫を行い、一人一人の児童が社会事象間の関連を児童自身の実感を伴った言葉で説明できるように進めていった。



資料 年齢3区分人口の推移(中位)

- 学んだことを基に予想を話し合う場面、互いの予想を吟味・検討して仮説へと高める場面を設定した。
- 役割演技の場面を設定した。

予想から仮説へと高める段階では、小集団での話し合いを中心に展開した。この話し合い活動は、児童の認識に差があるからこそ深まりのあるものとなる。自分の考えをなかなかもてない児童にとっても活用できる知識を増やすことになるし、既に考えをもっている児童にも自分の考えを論理的に整理することや知識を体系化して確かに理解することにつながると思ったからである。

さらに、少子高齢化社会の問題をわかりやすくとらえさせるために役割演技の場面を取り入れた。社会保障費として具体的な金額を設定して役割演技を行い、3人で1人の高齢者を支える現在と、1人で1人の高齢者を支える50年後とを演じさせた。その役割演技を振り返らせ話し合わせる場面を設定したことで、少子高齢化社会の問題点を具体的にとらえることができた。この役割演技を通して、「少子高齢化社会は問題だ。」といった漠然とした知識が、実感を伴った言葉による理解へと深めることができた。

